

平成31年度

科目名	和声学Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	Ⅲ			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 和声学Ⅰで学んだ基礎をもとに和声学Ⅱでは対位法を中心に学習します。対位法は原語ではContra Punctus(Punctus Contra Punctus)の意味であり、広義には旋律対旋律という意味です。このように、旋律対旋律の形成は音楽の本質として現代まで伝承され、現代では単に作曲技法に留まらず多声部音楽を理解する上で欠くことのできない学習です。 「授業の内容の概要」 はじめは和声学の不足部分を補い、旋律対旋律の初歩の書き方から学びます。			
達成目標	「授業修了時の達成度」 二声対位法の仕組みを理解し、自由な発想で書ける事を目標とします。 【履修カルテの評価項目】 ①定旋律に対して適切な対旋律が書ける。 ②1対自由まで理解している。 ③カノンやフーガの基礎を理解している。			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	試験80％、平常点20％	
教科書	「対位法」音楽之友社			
参考書	なし			
学生への要望	音楽の専門教科で特に難解であるため、復習が大切であり、実習が大切です。			
オフィスタイム	水曜日授業開始前、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	対位法の定義	対位法とは定旋律と規範的対旋律の協唱である事を学	0
2	定旋律と対旋律①	対位法と音楽の成り立ちについて。 定旋律と対旋律について。	0
3	定旋律と対旋律②	定旋律の性格とその形成について。	0
4	定旋律と対旋律③	対旋律の形成と和声的関連性について。 非和声音と旋律動向について。	0
5	定旋律と対旋律④	定旋律と対旋律との和声的関連性について。	0
6	定旋律と対旋律⑤	対旋律を創るにあたって留意点について。 アクセント旋律動向について。	0
7	定旋律と対旋律⑥	和声的動向、結尾等の形成について。	0
8	二分音符対位法①	二声対位法を実際に創り、定旋律と対旋律の旋律動向を学習する。	0
9	二分音符対位法②	二分音符対位法を実習和声で学習した四声体和声連結を参考にして。	0
10	二分音符対位法③	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。	0
11	二分音符対位法④	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。	0
12	四分音符対位法①	旋律動向において非和声音の使い方を理解し、対旋律の音楽的動向と和声との関係について。	0
13	四分音符対位法②	四分音符対位法の実習。	0
14	四分音符対位法③	四分音符対位法の実習和声的動向において音楽的禁則を学習する。	0
15	移勢対位法	移勢対位法についての説明と分析。	0

平成31年度

科 目 名	社会福祉概論	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	現代社会の生活問題に注目しつつ、日本の福祉制度について概要を学ぶ。			
達成目標	現代社会における福祉の課題が理解できている。 社会的困難を抱えている人々のニーズと福祉サービスについて理解できている。			
受講資格	地域創成学科 1年、音楽科 2年	成績評価 方法	期末試験 80% 小テスト 20%	
教科書	随時プリントを配布します			
参考書	授業の中で、紹介します			
学生への要望	常に新聞等に目を通し、現代社会問題に着目してください。			
オフィスタイム	金曜日の3・4限目（創学館4階 No.6研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション	授業の概略を説明する。 地域における福祉の課題について考え、グループで討議する	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30

平成31年度

科目名	生理学	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	金子 依里香			
開講期	Ⅳ			
授業概要	[授業の目的] この科目は音楽療法士（二種）養成の教育課程科目の一つである。音楽療法士に必要となる、人体の仕組みと働きについての理解を深める。 [内容の概要] 細胞の構造、骨格系、筋系、神経系、循環器系、消化器系、呼吸器系、生殖系および内分泌系など、人体の構造とそれらの機能について系統立てて学ぶ。			
達成目標	[到達目標（授業終了時の達成課題）] 身につけた生理学の知識をいかし、音楽だけでなく科学的な視点から人々の心身の健康に働きかけることができる。			
受講資格	短期大学部音楽科2年生	成績評価 方法	授業中に課す4回のミニテスト20点および期末試験80点満点の100点満点で評価する。60点以上で単位を認定する。	
教科書	久木野憲司 著 「解剖生理学」金原出版株式会社、京都（20・第7刷）2,700円（税別）			
参考書	高校で使用した生物基礎の教科書・参考書等の復習を勧める。			
学生への要望	授業中はしっかりノートを取り、集中して受講すること。また、事前、事後学習を行うこと。			
オフィスタイム	月曜日の3コマ目および水曜日の4コマ目。 担当教員研究室（家政学館2階 生理学研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	生理学総論	ガイダンスもかねて生理学の総論をはなす。音楽療法士において、この科目がなぜ必要なのかを学ぶ。	授業前は、教科書を読みながら、事前に配布する授業内容を抜粋した「予習プリント」を作成し授業に臨むこと。授業後は、「予習プリント」、ノートおよび教科書を使用し、授業内で配布する「確認プリント」を作成してミニテストに備えること。	90

科目名	小児保健	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	永瀬 悦子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	人間の一生の中における小児期は絶えず発育・発達をしている。助産師・看護師として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして、子どもの保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法、予防接種等について講義を行う。 現代社会における子どもを取り巻く健康問題と課題について認識した上で、その対応策についても学ぶ。更に、家庭と地域の連携を通じた保健活動及び、その関係機関との連携についても学ぶ。 [授業の目的・ねらい] 健康の保持・増進と精神の安定を図る保育において、子どもの保健の基礎的な知識を理解し、保育実践現場における保健活動の必要性理解するとともに予防・事故に対する対応を理解する。			
達成目標	1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2)子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3)子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4)子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
受講資格	音楽療法士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験80点・レポート20点	
教科書	松田博雄・金森三枝編集『子どもの保健』中央法規 2019年 ※資料を毎回配付			
参考書	大澤真木子監修 小國美也子編著『子どもの保健～健康と安全』日本小児医事出版社 2016年			
学生への要望	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。			
オフィスタイム	火曜日 V時限 (16：10～17：40) 832研究室 木曜日 I時限 (8：50～10：20) 832研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	子どもの心身の健康と保健の意義 1	1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2) 目的健康の概念と健康指標 3) 現代社会における保健活動と子どもの健康に関する現状と課題 ※保育所における保健活動が、生命の保持と情緒の安定にどのようにつながっているのかを考え養護と教育を一体的に行う意味や「健康」「人間関係」「環境」「表現」における目標や保育の重要性を学ぶ。	新聞記事や書籍、ニュース等を通して、現代の子どもの健康問題について調べる	30

平成31年度

科目名	音楽療法士実習（施設介護実習、病院実習、社会福祉施設等体験実習を含む）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 3単位 選択	
担当教員	南川 肇			
開講期	Ⅲ			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕音楽療法課程科目で学んだことを、医療施設の現場において、体験、実践することで理解を深める。 〔授業全体の内容の概要〕医療機関において、音楽療法を踏まえた実習を行う。			
達成目標	〔授業終了時の達成課題〕実習を体験することによって介護についての理解を深める。			
受講資格	音楽科2年生	成績評価 方法	平常点40%、レポート60%	
教科書	必要に応じて印刷物を配布。			
参考書	なし			
学生への要望	健康に注意して、積極的な姿勢で臨んでほしい。			
オフィスタイム	火曜から金曜日、12:00～12:50 音楽科No.1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	実習オリエンテーション	実習に当たる、準備、心構え。	実習施設について、調べる	60

平成31年度

科目名	作曲法	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 楽式アナリゼや和声学、対位法の学習を踏まえて作品制作に取り組みます。この事は実際の作品理解に大きく役立つものです。 「授業全体の内容の概要」 楽器論、編曲法についても学び、大きな視点から演奏の手助けとなるような音楽経験をします。			
達成目標	「授業修了時の到達目標」 作品の制作過程を知る事により、演奏の手助けとなるような音楽経験をします。 【履修カルテの評価項目】 ①和声学や対位法についての基礎知識がある。 ②美しいメロディーを作ることができる。 ③楽器や編曲法について理解している。			
受講資格	音楽科 2年	成績評価 方法	作品評価80%、平常点 2 0 %	
教科書	「学生のための和声の要点」 サーベル社			
参考書	対位法、和声学			
学生への要望	作曲を専門にする事ではなく、音楽理解において必要な事柄なので積極的に取り組んで下さい。			
オフィスタイム	月曜日授業開始前、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	特殊和音1 ドッペルドミナント	和声学（1年次）では時間の関係で進度が限られており、ここでは実際に役立つ様々な和音の説明と用法について学習する。 1としてドッペルドミナントの説明。		0
2	特殊和音2 副V度	副V度の考え方と用法。実際の例で説明。簡単な旋律を作り、副V度を使ってみる。基本的にドッペルドミナントと副V度の使用について理解をする。 ここでは1年次の全調カデンツが役に立つはずである。		0
3	特殊和音3 準固有和音	準固有和音と借用和音について例を挙げて説明。響き、用法などを会得する。楽曲の様式感とも関わることなので効果的に活用することを学ぶ。 またここでは終始法、カデンツの原理について再度学ぶ。		0
4	特殊和音4 ナボリのⅡ ドリアのⅣ	ナボリのⅡ、ドリアのⅣについて説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。		0
5	特殊和音5 フックスのⅤ ラモーの五六	フックスのⅤ、ラモーの五六について説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。		0
6	特殊和音のまとめ1	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練をする。 簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。		0
7	特殊和音のまとめ2	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練の2。 簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。		0
8	特殊和音のまとめ3	前2授業の作品を完成させる。提出、評価。		0
9	変奏1	変奏は作曲学上最も大事な技術の一つである。変奏の実際について様々な例から学ぶ。 実技を通して数多くの変奏を試みる。		0
10	変奏2	変奏の実際についての続き。 数多くの変奏を試みることによってより理解を深める。		0
11	変奏曲1	簡単な変奏曲の作曲。テーマは自作でも既成の楽曲でも良いが、無理のない自然な変奏が出来るよう心がける。		0
12	変奏曲2	前週の作業の続きを行う。		0
13	変奏曲3	前週の作業の続きを行う。		0
14	変奏曲4	変奏曲の完成。提出、評価。		0
15	管弦楽法	管弦楽法への導入。 合奏の諸形態、響きについての説明などを行いⅣ期に行う管弦楽法への導入とする。		0
16	管弦楽法、楽器論①	Ⅳ期は主に管弦楽法を学び、楽曲の編曲を行う。 楽器論①としてフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットなど木管楽器の特性について学ぶ。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
17	管弦楽法、楽器論②	楽器論②としてホルン、トランペット、トロンボーン、チューバなど金管楽器の特性について学ぶ。素材、奏法など。		0
18	管弦楽法、楽器論③	楽器論③としてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスなど弦楽器の特性について学ぶ。素材、奏法など。		0
19	管弦楽法、楽器論④	ティンパニ、バスドラム、スネアドラム、その他打楽器は種類が多い。その中から主にオーケストラや吹奏楽で用いられる打楽器について学ぶ。		0
20	管弦楽法、楽器論⑤	特殊楽器や打楽器などについて補足説明。		0
21	管弦楽法	各楽器の組み合わせ方や管楽器と弦楽器の音量の違い、バランスなど実際の管弦楽作品を参考にしながら研究する。		0
22	管弦楽法、編曲①	ソナチネなどの簡単なピアノ曲を木管アンサンブルやその他の室内楽作品としてアレンジする。学生間でアンサンブルできる編成が望ましい。		0
23	管弦楽法、編曲②	授業の中で実際に編曲する。楽器の使い方、技術面の特性など編曲しながら考える。一人ひとりの疑問に答え、添削も行う。 以下3回にわたりこの作業を続ける。作業①		0
24	編曲②	前週の続き作業② 質問を受けながら作ってゆく。		0
25	編曲③	前週の続き作業③ 質問を受けながら作ってゆく。		0
26	編曲④	編曲の仕上げを行い、パート譜の作成をする。		0
27	編曲のまとめ	数名の作品を選び、学生同士で演奏し、それぞれの作品について聴きあい、批評しあう。 提出、評価。		0
28	歌曲①	歌曲は無駄がなく、もっとも技術を要する。言葉を伴うことから詩句の解釈や日本語のイントネーションを吟味し、必然性のあるメロディを作成することが要求される。		0
29	歌曲②	それぞれ選んだ詩について歌曲を作成。これを前回同様2回にわたって行う。作業①		0
30	歌曲③	作業②歌曲の仕上げ、清書して完成させる。提出、評価。		0

平成31年度

科目名	指揮法	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	岡部 富士夫		
開講期	Ⅲ		
授業概要	「授業の目的・ねらい」 指揮法は単に指揮の仕方を学ぶだけではなく表現力や楽曲の分析、音楽に対してどう向き合うかを学ぶものです。 「授業全体の内容の概要」 音楽を正しく理解し表現する力を習得します。合唱やオーケストラの指揮の実際を学びます。		
達成目標	「授業修了時の到達目標」 楽曲を分析し、正しく伝える技術を身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①図形を正しく振る事ができる。 ②作品を正しく解釈することができる。 ③自分の意思を明確に伝えられる。		
受講資格	音楽科 2年	成績評価 方法	実技試験 80%、平常点 20%
教科書	斉藤秀雄著「指揮法教程」音楽之友社		
参考書	なし		
学生への要望	オーケストラや合唱を指揮するということは作品をどれだけ知っているかにかかります。広い視野から音楽に向き合う姿勢が大事です。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-				
回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション	指揮とは何か、指揮者の必要性とは何か、について学		0
2	基礎訓練①	叩きは指揮の基本である。平均運動、加速、減速につ		0
3	基礎訓練②	叩きと各拍子について。 図形について。		0
4	ウェーバー・ヴァリエー ション①	ウェーバーのヴァリエーションを教材として予備、平		0
5	ウェーバー・ヴァリエー ション②	曲中にあるフェルマータ、rit. やcrescendoの振り方		0
6	あかるい日の歌Ⅱ	変拍子、8分の8、8分の7、8分の5などの振り		0
7	ハイドン・アレグロ ①	ハイドンのアレグロを教材に打法の練習。		0
8	ハイドン・アレグロ②	裏拍の指示の仕方、テンポの速い曲への対応の仕方。		0
9	ベートーヴェン交響曲第1 番 ①	ベートーヴェンの交響曲第1番の第1楽章序奏の部分		0
10	ベートーヴェン交響曲第1 番 ②	分割の仕方、楽器の特性、音色の変化など。		0
11	ベートーヴェン交響曲第1 番 ③	休符の処理、tuttiのアインザッツ。 各パートへのアインザッツ。		0
12	ベートーヴェン交響曲第1 番④	音源を聴きイメージを作る。 弓、プレスと棒の関係。		0
13	ベートーヴェン交響曲第1 番⑤	全体を振る。 批評しあう。		0
14	ベートーヴェン交響曲第1 番⑥	全体を振る。 批評しあう。		0
15	ベートーヴェン交響曲第1 番 ⑦	指揮法のまとめ。		0

平成31年度

科目名	声楽Ⅱ（主科）	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修	
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 正確な発声を修得し、各原語によるオペラや芸術歌曲を、感性を生かし舞台表現できることをねらいとする。 〔授業全体の内容の概要〕 個々の能力を伸ばすため、1年次からの個人レッスン形式の授業を展開し、1年次で学んだ発声法を確実に身に付け、日本語、イタリア語、ドイツ語の正確な発音を習得し、各原語に合ったフレー징ングのポイントを解説していく。また音楽表現について、各々の表現をアクティブラーニング（能動的学修）や双方向型授業で進めて行く。			
達成目標	〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌唱表現ができたか。			
受講資格	期大学部 音楽科 2年	成績評価 方法	平常点10％、演奏90％にて評価、ルーブリック評価で評価を行う。	
教科書	イタリア歌曲集 （全音楽楽譜出版）、ドイツ歌曲集（全音楽楽譜出版）、 日本歌曲集			
参考書	発声や歌唱に関する書物全般			
学生への要望	発声を土台とし歌唱法のフレー징ングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。			
オフィスタイム	月曜日Ⅲ限、火曜日Ⅱ限 No.3音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Ⅲ期ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えにつ 本学科のシラバスを見て、授業内容、300

科目名	声楽Ⅱ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	割谷 由美子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。			
受講資格	音楽科 1 年	成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点	
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参考書	特になし			
学生への要望	1年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。			
オフィスタイム	月火 レッスン室No. 1			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、各個人、声種に合ったドイツ歌曲（モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルク）の選択、評価方法について説明。		0
2	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・1	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショント ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング		0
3	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・2	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショント ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング		0
4	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・3	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショント ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
5	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・4	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング		0
6	ドイツ歌曲（ロマン派）・1	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する		0
7	ドイツ歌曲（ロマン派）・2	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する		0
8	ドイツ歌曲（ロマン派）・3	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する		0
9	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・1	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する		0
10	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・2	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する		0
11	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・3	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する		0
12	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・1	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する		0
13	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・2	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する		0
14	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・3	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する		0
15	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・4	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する		0
16	後期ガイダンス	前期試験の反省を踏まえたレッスンの進め方、定期演奏会オーディション、卒業試験に向けての楽曲選択、評価方法についての説明。		0
17	定期演奏会オーディションの楽曲・1	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン		0
18	定期演奏会オーディションの楽曲・2	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン		0
19	オペラアリア・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する		0
20	オペラアリア・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
21	オペラアリア・3	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する		0
22	オペラアリア・4	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する		0
23	日本歌曲・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択した日本歌曲の歌唱法を解説する ③発声を生かした日本語のアーティキュレーションを解説する		0
24	日本歌曲・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する		0
25	卒業試験曲・1	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する		0
26	卒業試験曲・2	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する		0
27	卒業試験曲・3	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する		0
28	卒業試験曲・4	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する		0
29	卒業試験曲・5	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する		0
30	卒業試験曲・6	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する		0

平成31年度

科 目 名	声楽Ⅱ（副科）	対 象 単 位 数 必 選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修	
担 当 教 員	磯部 哲夫			
開 講 期	通年			
授 業 概 要	【授業の目的・ねらい】 ①発声法・・・腹式呼吸、共鳴の修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語またはドイツ語の発音の修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 【授業全体の内容の概要】 ①1年次で修得した発声法を活かし、各原語に合った歌唱法を実践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。			
達 成 目 標	【授業修了時の到達課題（到達目標）】 正しい発声、各原語による歌唱法を修得し、歌唱表現ができるようにする。 ①横隔膜を広げ、下腹部で支える腹式呼吸で息を流し声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。 ③常に頭部前方へ息を流し、言葉の発音を結びつけ歌唱しているか。			
受 講 資 格	音楽科2年	成 績 評 価 方 法	平常店10点 実技試験90点	
教 科 書	イタリア古典歌曲集Ⅰ、Ⅱ イタリア近代歌曲 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参 考 書	特になし			
学 生 へ の 要 望	レッスンでの指摘を把握し、次回には改善が見られるように、日々の練習に励むこと。			
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、ローテーション、評価方法について説明		0
2	日本歌曲・1	①発声法・・・1年次の復習 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
3	日本歌曲・2	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅰ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
4	日本歌曲・3	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅱ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
5	日本歌曲・4	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅰ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
6	日本歌曲・5	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅱ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
7	日本歌曲・6	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅲ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
8	日本歌曲・7	①発声・・・共鳴法と頭声の習得Ⅳ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
9	日本歌曲・8	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅴ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
10	日本歌曲・9	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅵ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
11	日本歌曲・10	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅶ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
12	日本歌曲・11	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅷ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
13	日本歌曲・12	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅸ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
14	日本歌曲・13	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅹ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
15	前期まとめ	①発声法のまとめ ②日本語発音のまとめ ③日本歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ		0
16	後期ガイダンス	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法についての説明		0
17	各原語による歌曲・1	①発声法の総合的な習得Ⅰ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
18	各原語による歌曲・2	①発声法の総合的な習得Ⅱ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
19	各原語による歌曲・3	①発声法の総合的な習得Ⅲ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
20	各原語による歌曲・4	①発声法の総合的な習得Ⅳ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
21	各原語による歌曲・5	①発声法の総合的な習得Ⅴ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
22	各原語による歌曲・6	①発声法の総合的な習得Ⅵ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
23	各原語による歌曲・7	①発声法の総合的な習得Ⅶ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
24	各原語による歌曲・8	①発声法の総合的な習得Ⅷ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
25	各原語による歌曲・9	①発声法の総合的な習得Ⅸ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
26	各原語による歌曲・10	①発声法の総合的な習得Ⅹ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
27	各原語による歌曲・11	①発声法の総合的な習得Ⅺ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
28	各原語による歌曲・12	①発声法の総合的な習得Ⅻ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
29	各原語による歌曲・13	①発声法の総合的な習得のまとめ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
30	後期まとめ	①発声法のまとめ ②各原語の発音についてのまとめ ③各原語による歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ		0

科目名	ピアノⅡ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏技術等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派、印象派等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。			
受講資格	短大音楽科2年		成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%
教科書	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	適宜提示をする。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。授業での課題を次の授業までに解決出来るよう、よく考えながら工夫をし根気強く取り組んでほしい。			
オフィスタイム	月曜日Ⅳ限、水曜日Ⅱ限 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。 事前事後学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるように十分な準備が必要である。	300

科目名	ピアノⅡ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。			
受講資格	短大音楽科 2 年		成績評価 方法	実技試験 9 0 %、平常点 1 0 %
教科書	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	適宜提示をする。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。授業での課題を次の授業までに解決出来るよう、よく考えながら工夫をし根気強く取り組んでほしい。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。 事前事後学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるように十分な準備が必要である。	300

科目名	ピアノⅡ（副科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
担当教員	深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派や近現代の作品などにも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。			
受講資格	短大音楽科 2年		成績評価 方法	実技試験 90％、平常点 10％
教科書	古典派、ロマン派、近現代等の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。 レッスンでの内容について消化できるよう練習する。事前事後指導学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるよう十分な準備が必要である。	120

平成31年度

科目名	管楽Ⅱ（主科）	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修	
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①管楽器演奏テクニックの問題点がある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができているか。 ②楽曲を通してその奏法をある程度理解できたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできているか。			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	実技試験90％ 平常点10％	
教科書	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。			
参考書	『30のカプリス』カヴァリーニ他			
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。			
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	基礎練習①	支えと音の方向性について		0
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性		0
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置		0
4	基礎練習、前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア		0
5	基礎練習、前期試験に向けて②	低音域のポジション		0
6	基礎練習、前期試験に向けて③	高音域のポジション		0
7	基礎練習、前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味		0
8	基礎練習、前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング		0
9	基礎練習、前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係		0
10	基礎練習、前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係		0
11	基礎練習、前期試験に向けて⑧	fの出し方		0
12	基礎練習、前期試験に向けて⑨	Pの出し方		0
13	基礎練習、前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法		0
14	基礎練習、前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには		0
15	基礎練習、前期試験に向けて⑫	前期のまとめ		0
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味		0
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ボウイングのupとdownを取り入れる		0
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度		0
19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ		0
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い		0
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには		0
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて		0
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには		0
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	後期試験に向けて最終チェック		0
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	後期試験に向けて最終チェック		0
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック		0
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	暗譜の確認		0
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	暗譜の確認		0
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏と評価		0

平成31年度

科目名	伴奏法	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 伴奏の役割を理解し、伴奏の基礎とアンサンブルの重要性を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 歌曲の伴奏を中心として、伴奏に必要な知識や基本的な技能の習得を目指す。音楽療法の実習もふまえて選曲をしていく。簡単なコードネームによる伴奏付けも学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 伴奏の役割の大切さを理解する。コードネームによる伴奏づけを実践できるようにする。 ①授業毎の課題を消化できたか。 ②歌詞の意味を理解し伴奏の表現ができるか。 ③平易なコード伴奏ができるか。			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験80点、平常点20点	
教科書	コードを覚えてピアノを弾こう①②（森本琢朗・内藤雅子共著 ドレミ楽譜出版社）			
参考書	日本名歌選集（右近義徳編 全音楽譜出版社）、こころの名歌集（西東社） 他			
学生への要望	実技を伴う授業なので課題の練習をすること。繰り返し練習することが上達に繋がるので日々の研鑽を怠らないこと。音楽のセンスを養う。			
オフィスタイム	月曜日Ⅳ限、水曜日Ⅱ限 No.1 音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	導入	授業の進め方や取り上げる課題について説明し、取り組み方について総合的な理解を深める。第2回目の授業課題を確認する。	「早春賦」の譜読みを行う。120
2	中田章作曲「早春賦」①	「早春賦」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。	「早春賦」の練習を行う。120
3	中田章作曲「早春賦」②	「早春賦」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。前回の授業を踏まえ更なる表現法を追求する。ペアを作りディスカッションや演奏発表を通して伴奏の在り方を探る。	「早春賦」の復習と「夏の思い出」の譜読みを行う。120
4	中田喜直作曲「夏の思い出」①	「夏の思い出」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。	「夏の思い出」の練習を行う。120
5	中田喜直作曲「夏の思い出」②	「夏の思い出」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。前回の授業を踏まえ更なる表現法を追求する。ペアを作りディスカッションや演奏発表を通して伴奏の在り方を探る。	「夏の思い出」の復習と「花のまち」の譜読みを行う。120
6	團伊玖磨作曲「花のまち」①	「花のまち」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。	「花のまち」の練習を行う。120
7	團伊玖磨作曲「花のまち」②	「花のまち」を取り上げ、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。前回の授業を踏まえ更なる表現法を追求する。ペアを作りディスカッションや演奏発表を通して伴奏の在り方を探る。	「花のまち」の復習と「浜辺の歌」の譜読みを行う。120
8	成田為三作曲「浜辺の歌」①	「浜辺の歌」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。	「浜辺の歌」の練習を行う。120
9	成田為三作曲「浜辺の歌」②	「浜辺の歌」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。前回の授業を踏まえ更なる表現法を追求する。ペアを作りディスカッションや演奏発表を通して伴奏の在り方を探る。	「浜辺の歌」の復習と指定課題の練習を行う。120
10	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究①	専攻実技（主科・副科）で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。	指定課題の練習を行う。120
11	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究②	専攻実技（主科・副科）で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。	指定課題の練習を行う。120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究③	専攻実技（主科・副科）で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。	指定課題の練習を行う。 120
13	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究④	専攻実技（主科・副科）で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。	指定課題の練習を行う。 120
14	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究⑤	専攻実技（主科・副科）で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。グループごとに発表し互いに意見交換を行う。	指定課題の練習を行う。 120
15	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究⑥	専攻実技（主科・副科）で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。第14回目の授業での反省を基に課題解決を図り、演奏発表を行う。互いに評価を行う。	指定課題の復習と「校歌」の練習を行う。 120
16	校歌（深尾須磨子作詞、一宮道子作曲）	郡山女子大学の「校歌」の歌詞の解釈、演奏上の表現や注意点を考える。	「校歌」の復習。コードネームについて予習をしてくる。 120
17	コードネームの理解と実践①	主要三和音の理解と実践。Cコード、G/G7コード、Fコードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。全調のカデンツ（TSDT）の理解。	主要三和音や全調のカデンツ（TSDT）が掴めるよう繰り返し練習をする。 120
18	コードネームの理解と実践②	全調のカデンツ（TSDT）の確認テスト。副三和音の理解と実践。Dmコードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	副三和音のコードの理解とDmのコード進行を覚え、使用できるようにする。 120
19	コードネームの理解と実践③	副三和音の理解と実践。Amコードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	副三和音のコードの理解とAmのコード進行を覚え、使用できるようにする。 120
20	コードネームの理解と実践④	副三和音の理解と実践。Emコードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	副三和音のコードの理解とEmのコード進行を覚え、使用できるようにする。 120
21	コードネームの理解と実践⑤	短調の曲での主要三和音と属七のコード進行を理解し、伴奏付けを行う。	短調の主要三和音と属七のコード進行を身につけてくる。 120
22	コードネームの理解と実践⑥	借用和音の理解と実践。D7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、D7コード進行を覚え、使用できるようにする。 120
23	コードネームの理解と実践⑦	借用和音の理解と実践。C7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、C7コード進行を覚え、使用できるようにする。 120
24	コードネームの理解と実践⑧	借用和音の理解と実践。A7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、A7コード進行を覚え、使用できるようにする。 120
25	コードネームの理解と実践⑨	借用和音の理解と実践。E7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、E7コード進行を覚え、使用できるようにする。 120
26	コードネームの理解と実践⑩	借用和音の理解と実践。B7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、B7コード進行を覚え、使用できるようにする。 120
27	童謡や歌曲の演習と伴奏付け①	音楽療法の現場で役立つ曲を選曲し、簡易伴奏やコードでの伴奏付けも行う。	多くの曲に取り組み、コードでの伴奏付けとアレンジに慣れるよう練習する。 120
28	童謡や歌曲の演習と伴奏付け② 専攻実技試験曲伴奏の研究①	音楽療法の現場で役立つ曲を選曲し、簡易伴奏やコードでの伴奏付けも行う。専攻実技試験に向けた演習を行う。	多くの曲に取り組み、コードでの伴奏付けとアレンジに慣れるよう練習する。専攻実技（主科・副科）で取り組んでいる楽曲の伴奏の合わせも含めた練習を行う。 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
29	童謡や歌曲の演習と伴奏付け③ 専攻実技試験曲の研究②	音楽療法の現場で役立つ曲を選曲し、簡易伴奏やコードでの伴奏付けも行う。専攻実技試験に向けた演習を行う。	多くの曲に取り組み、コードでの伴奏付けとアレンジに慣れるよう練習する。専攻実技（主科・副科）で取り組んでいる楽曲の伴奏の合わせも含めた練習を行う。	120
30	コードでの伴奏付けの確認テストとまとめ	コードでの伴奏づけの理解度を見る確認テストを行う。また、1年間の学びを踏まえ、伴奏の在り方についてディスカッションし授業のまとめを行う。	確認テストに向け、多くの曲に取り組み、コードでの伴奏付けとアレンジに慣れるよう練習する。	120

平成31年度

科目名	ソルフェージュⅡ		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
担当教員	南川 肇, 深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とする。 〔授業全体の内容の概略〕 単旋律、2声、4声の聴音を行い、音を聴き取り楽譜にする能力を養う。また、新曲視唱では正しい音程やリズムを理解し、歌えるようにする。年間を通じて能力別クラスで授業を行う。 グループごとにリズムを作成し、授業内で発表しあう。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 単旋律、2声、4声の聴音、及び、新曲視唱ができるようになること。			
受講資格	音楽科2年		成績評価 方法	学期末テスト80点、平常点20点
教科書	印刷物の配布			
参考書	特になし			
学生への要望	授業の時間のみでなく、日頃より楽譜を正確に読み、音をよく聴く習慣を身に付けて欲しい。			
オフィスタイム	火曜日～木曜日 12:00～12:50 No. 1 音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス クラス分け聴 音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明 をする。 能力別クラス編成の為のテスト	次の授業に備え、リズム打ち、視唱練 習をしておくこと。	120

科目名	合唱Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	磯部 哲夫, 深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 音楽の基本であるアンサンブルを理解すると共に、ハーモニー感を養い、歌詞を美しく歌い、合唱の響きを追求する。 「授業全体の内容の概要」 合唱Ⅰでの基礎を踏まえ、発声を活かし、テクスチャを理解し、より高度な合唱作品を完成させる。また、音楽表現について、各々の表現をアクティブラーニング（能動的学修）や双方向型授業で進めて行く。			
達成目標	「授業修了時の達成課題」 ①音程リズムを正確に歌う事ができているか。 ②他のパートと協調し、アンサンブルができるか。 ③自主的に音楽表現を行っているか。			
受講資格	短期大学部 音楽科 2年		成績評価 方法	平常点２０％、演奏８０％にて評価
教科書	信長貴富作曲 宮本益光作詞 二部合唱のための６つのソング「うたうたう」 音楽之友社			
参考書	特になし			
学生への要望	自分のパートにおいて音が取れていない箇所は、必ず次の時間の授業までに譜読みをしておくこと。			
オフィスタイム	磯部：月曜日Ⅲ限、火曜日Ⅱ限 No.3 音楽科研究室 深谷：水曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 No.1 音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-				
回	項目	授業内容		
1	合唱音楽への導入	西洋音楽においての合唱の流れを解説する。ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの3声また2声のパートを決める。パートリーダーを決める。	本学科のシラバスを確認し、授業内容、スケジュール、成績評価等を確認しておくこと。	120

平成31年度

科目名	合奏Ⅱ	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 選択
担当教員	南川 肇, 増子 仁保		
開講期	通年		
授業概要	「授業の目的・ねらい」 高大連携授業として附属高校音楽科と合同で行う。前期に創立記念式典、高校音楽科の定期演奏会、後期に短大音楽科の定期演奏会に出演する。 「授業全体の内容の概要」 Ⅰ、Ⅲ期に学習した基礎の上に立ち、Ⅱ、Ⅳ期は卒業式における奏楽曲の練習によってオーケストラ演奏の実際を学ぶ。		
達成目標	「授業修了時の到達度」 合奏を学ぶ事により、アンサンブル能力を身につけ合奏Ⅱにスムーズに入って行けるようにする。 ①基本的楽器の奏法をマスターしているか ②音程、リズムなど合奏に必要な基礎能力を身につけているか ③他と協調し美しいアンサンブルが出来るか		
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	実技試験80％、平常点20％
教科書	君が代、記念式典歌、祝典序曲、吾子よ、応答歌、校歌、その他の楽曲。		
参考書	なし		
学生への要望	オーケストラの一員としての責任と自覚を持って取り組むこと。		
オフィスタイム	火～金曜日 12：00～12：50 音楽科第1研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。	60

科目名	アンサンブル		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 アンサンブルのの演奏方法、コミュニケーションの取り方、練習方法などのテクニックを身につける。 〔授業全体の内容の概要〕 様々な編成の室内楽を、個々のレベルに合わせ演奏する。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 アンサンブルのテクニックを身につけ、様々な編成の室内楽の演奏法ができるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①室内楽の演奏方法を理解できたか。 ②他の声部をよく理解し、それに合わせた演奏ができたか。 ③他の奏者に、方向性を示すことができたか。			
受講資格	音楽科2年生		成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％
教科書	個々のレベルにあった、アンサンブル曲。			
参考書	無し			
学生への要望	室内楽の奏法を身につけ、音楽一般の演奏力を伸ばしてもらいたい。			
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12：00～12：50			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス	アンサンブルに対する心構えや指導方針の説明	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
2	基本練習①	ブレス、アインザッツの重要性と方法。	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
3	基本練習②	ブレス、アインザッツの重要性と方法。	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
4	基本練習③	テンポ設定と音楽表現。	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
5	基本練習④	テンポ設定と音楽表現。	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
6	実践①	個々のレベルと編成にあった選曲。グループごとにディスカッションし、自分たちで演奏可能な曲を選択し、練習方針を決める。	いろいろな種類の、アンサンブルを調べ、視聴する。	120
7	実践②	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
8	実践③	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
9	実践④	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
10	実践⑤	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
11	実践⑥	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
12	実践⑦	曲の分析とその表現方法を考える。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
13	実践⑧	曲の分析とその表現方法を考える。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
14	実践⑨	プレゼンテーションに向けての準備。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
15	発表	今までの、成果を演奏によって発表する。また、曲について、演奏する際の心構えなどをプレゼンテーションする。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
16	実践⑩	個々のレベルと編成にあった選曲。グループごとにディスカッションし、自分たちで演奏可能な曲を選択し、練習方針を決める。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
17	実践⑪	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
18	実践⑫	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
19	実践⑬	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120
20	実践⑭	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任をもって練習してすること	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
21	実践⑮	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120
22	実践⑯	曲の分析とその表現方法を考える。	自分のパートを責任もって練習すること	120
23	実践⑰	曲の分析とその表現方法を考える。	自分のパートを責任もって練習すること	120
24	実践⑱	プレゼンテーションに向けての準備。	自分のパートを責任もって練習すること	120
25	実践⑲	今までの、成果を演奏によって発表する。また、曲について、演奏する際の心構えなどをプレゼンテーションする。	自分のパートを責任もって練習すること	120
26	実践㉔	個々のレベルと編成にあった選曲。グループごとにディスカッションし、自分たちで演奏可能な曲を選択し、練習方針を決める。	自分のパートを責任もって練習すること	120
27	実践㉕	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120
28	実践㉖	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120
29	実践㉗	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120
30	発表	研究成果の発表。及び評価。	自分のパートを責任もって練習すること	120

平成31年度

科目名	卒業研究	対象 単位数 必修	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上を図る。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲への深い理解のもと、自己の表現を修得する。 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解し表現できているかどうか。			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	論文40%、演奏60%にて評価	
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	作曲家や作品に関する書籍や文献。音楽史、音楽通論、世界史等に関する書籍。			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究を進めて欲しい。			
オフィスタイム	月曜日Ⅳ限、水曜日Ⅱ限 No.1 音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	演奏研究1	ピアノⅡの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。	ピアノⅡでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分に行う。	120

平成31年度

科目名	卒業研究	対象 単位数 必修	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修	
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上を図る。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲への深い理解のもと、自己の表現を修得する。 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解し表現できているかどうか。			
受講資格	短大音楽科 2年生	成績評価 方法	論文40%、演奏60%、ルーブリック評価で評価を行う。	
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	作曲家や作品に関する書籍や文献。音楽史、音楽通論、世界史等に関する書籍。			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究を進めて欲しい。			
オフィスタイム	月曜日Ⅲ限、火曜日Ⅱ限 No.3音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	演奏研究 1	声楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。	声楽Ⅱでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分に行う。	120

平成31年度

科目名	卒業研究	対象 単位数 必修	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修	
担当教員	深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上を図る。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲への深い理解のもと、自己の表現を修得する。 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解し表現できているかどうか。			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	論文40%、演奏60%にて評価	
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	作曲家や作品に関する書籍や文献。音楽史、音楽通論、世界史等に関する書籍。			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究を進めて欲しい。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 No.1 音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	演奏研究1	ピアノⅡの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。	ピアノⅡでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分に行う。	120